

資料編



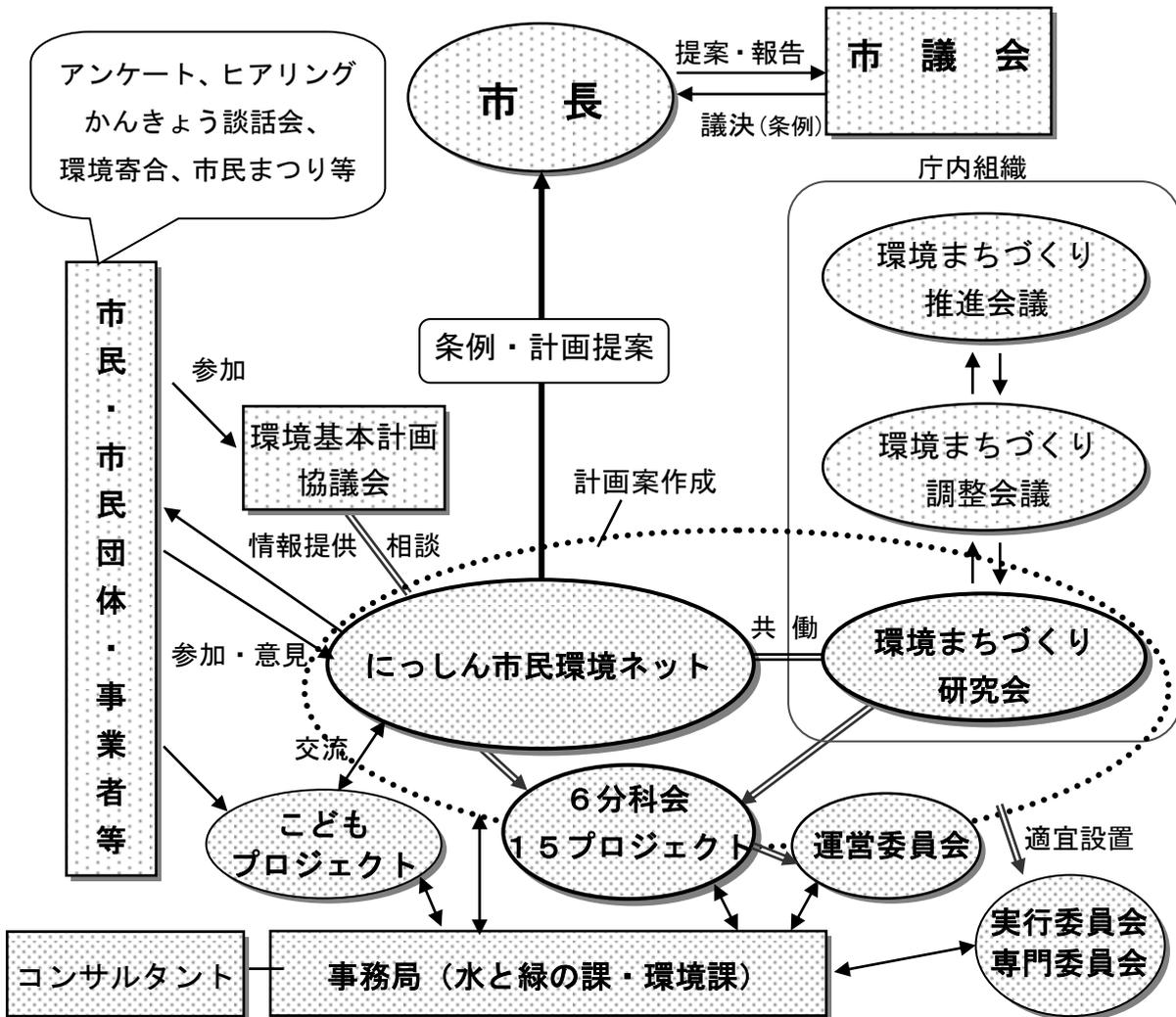
1 策定組織と委員名簿

(1) 策定組織体制

本計画は、市民組織である「にっしん市民環境ネット」(以下「市民ネット」という)と市職員組織のワーキングチーム「環境まちづくり研究会」(以下「まち研」という)とが、平成13年度から平成15年度の3カ年かけて一から検討してきたものです。

同時に、子どもも一人の市民としてまちづくりに参画できる「こどもプロジェクト」を1年間にわたって行い、そこで提案された意見も本報告に反映させています。

このほか、市民・事業者・農業者・樹林地所有者・子どもに対するアンケート調査、自然環境調査、ヒアリング調査なども行い、本計画づくりに活かしました。



(2) にっしん市民環境ネット

平成 13 年 8 月 7 日に発足しました。公募の市内在住者、在勤者、在学者で組織され、平成 16 年 2 月時点で 72 人が在籍しています。平成 13 年 2 月からまち研と合同で会議を持つようになり、平成 14 年度には 6 つの分科会に分かれた調査・研究、計画検討を行い、平成 15 年度からは 15 のプロジェクトチームに分かれ、重点プロジェクトの実効性の確保を進めました。また各種実行委員会にも参加して、様々な活躍をしました。

市民ネットの委員名簿を以下に示します。

氏名	平成14年度分科会	平成15年度プロジェクトチーム、各種委員会 (★印はプロジェクトリーダー)	氏名	平成14年度分科会	平成15年度プロジェクトチーム、各種委員会 (★印はプロジェクトリーダー)
浅野 令子	—	源流域元気	酒井 信	ライフスタイル	みんなにやさしい交通、環境情報、エコ生活
兄山 弘延	遊びと学び	にっしんのんびり村	佐藤 一郎	—	にっしんのんびり村
雨宮 民子	—	みどりいっぱい	佐藤 正彦	—	セントラルパーク
石川 宏子	遊びと学び	にっしんのんびり村、日進環境早春催事実行委員会	柴田 裕	—	東部丘陵自然公園、みんなにやさしい交通
石黒 悠子	緑	東部丘陵自然公園、農業公園(★)	島田 聡美	—	みどりいっぱい、環境情報、広報委員会
市川 貴規	コミュニティ	小学校区コミュニティ	島村紀代美	遊びと学び	にっしんのんびり村、おまかせ！エコ共育(★)、広報委員会、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会、こどもプロジェクトスタッフ
伊藤 肇	水	親水基準(★)、市民ネットNPO法人化、にっしんのんびり村、日進環境早春催事実行委員会	杉上 勝美	—	小学校区コミュニティ
大内 智子	—	農業公園、みどりいっぱい	杉澤 周子	緑	東部丘陵自然公園(★)
大江 信彦	コミュニティ	小学校区コミュニティ、市民ネットNPO法人化(★)、にっしんのんびり村、環境寄合実行委員会、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会	鈴木 鐵男	コミュニティ	小学校区コミュニティ
岡田あつみ	水(★)	源流域元気(★)、にっしんのんびり村	鈴木美智子	—	みどりいっぱい
岡本 浩二	遊びと学び	エコ生活	須藤 国彦	緑	源流域元気、東部丘陵自然公園
奥村 祥子	遊びと学び	みどりいっぱい、エコ生活、日進環境早春催事実行委員会	平 進一	まち	セントラルパーク、細街路のまちなみ
加藤優美子	—	源流域元気	竹下 啓	まち	エコカー、みんなにやさしい交通(★)、日進環境早春催事実行委員会
蟹江 恵	—	環境情報、エコ生活、市民ネットNPO法人化、ゆの編集委員会	武田 豊	ライフスタイル	環境情報、エコ生活
神谷 繁雄	—	東部丘陵自然公園、セントラルパーク、小学校区コミュニティ	城 克彦	まち	セントラルパーク、細街路のまちなみ
川合亜希子	遊びと学び	市民ネットNPO法人化、にっしんのんびり村	弟子丸富江	ライフスタイル (★)	環境情報(★)、おまかせ！エコ共育、広報委員会、環境寄合実行委員会、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会
木下 良平	—	源流域元気	富永栄之丞	まち	みんなにやさしい交通
久保 朋子	—	源流域元気	富永 英二	—	エコカー
小西 雅代	遊びと学び	にっしんのんびり村、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会	中西 和子	ライフスタイル	みんなにやさしい交通、エコ生活(★)、広報委員会、環境寄合実行委員会、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会
斉藤 尚文	コミュニティ	小学校区コミュニティ、環境基本条例づくり専門委員会、ゆの編集委員会	中西 浩二	ライフスタイル	おまかせ！エコ共育、ゆの編集委員会

氏名	平成14年度分科会	平成15年度プロジェクトチーム、各種委員会 (★印はプロジェクトリーダー)	氏名	平成14年度分科会	平成15年度プロジェクトチーム、各種委員会 (★印はプロジェクトリーダー)
中野 兼司	ライフスタイル	環境情報	宮川 歳光	緑	源流域元気、農業公園
丹羽 敏朗	コミュニティ(★)	小学校区コミュニティ(★)、市民ネットNPO法人化	村上 哲男	—	みどりいっぱい、環境情報
萩野 光代	まち	みんなにやさしい交通	村田 尚生	遊びと学び(★)	市民ネットNPO法人化、にっしんのんびり村(★)、おまかせ！エコ共育、環境寄合実行委員会
林 紀男	—	農業公園、みどりいっぱい	村田 元就	緑(★)	東部丘陵自然公園(★)、環境基本条例づくり専門委員会
林 雅人	ライフスタイル	エコ生活	森口 仲樹	水	にっしんのんびり村、おまかせ！エコ共育
菱田 和夫	まち	細街路のまちなみ、環境情報、エコ生活	森 麻里子	—	源流域元気、細街路のまちなみ、みんなにやさしい交通、環境寄合実行委員会
平野 興三	—	みんなにやさしい交通、市民ネットNPO法人化	山内 裕美	遊びと学び	市民ネットNPO法人化、広報委員会(★)、環境寄合実行委員会、ゆの編集委員会、日進環境早春催事実行委員会、こどもプロジェクトスタッフ
藤本五百子	—	みどりいっぱい	山岸 隆夫	遊びと学び	源流域元気、にっしんのんびり村
堀 透	—	東部丘陵自然公園	山口 軌示	コミュニティ	東部丘陵自然公園、小学校区コミュニティ
本多 俊枝	ライフスタイル	エコ生活、おまかせ！エコ共育、広報委員会、ゆの編集委員会	山崎 文雄	緑	東部丘陵自然公園、みどりいっぱい
眞柄 文子	—	東部丘陵自然公園、小学校区コミュニティ、環境寄合実行委員会、日進環境早春催事実行委員会	山下 拓也	—	東部丘陵自然公園
松本 昭	—	みんなにやさしい交通、エコ生活	山田 邦明	緑	農業公園、みどりいっぱい
松本 淳子	水	にっしんのんびり村	山林恵美子	コミュニティ	小学校区コミュニティ、市民ネットNPO法人化、ゆの編集委員会
真野 敦子	遊びと学び	農業公園	吉岡 正明	ライフスタイル	東部丘陵自然公園、市民ネットNPO法人化
真野 賢一	遊びと学び	農業公園、にっしんのんびり村	吉田 徳巨	—	親水基準、源流域元気
丸山 安長	まち(★)	みどりいっぱい(★)	渡辺 昌代	緑	東部丘陵自然公園、みどりいっぱい

(3) 市職員組織（環境まちづくり推進会議・同調整会議・同研究会）

本計画を策定するにあたり、市民ネットとまち研で構成する全体会で作成する計画案を尊重し、本市における総合的かつ体系的な環境まちづくり施策を進めるために、「政策推進会議」の構成員で組織される環境まちづくり推進会議（以下、「推進会議」という）を設置しました。また、推進会議に、環境基本計画策定に係る施策推進及び連絡調整を行うため、「部課長全体会議」の構成員で組織される環境まちづくり調整会議があり、さらに、市民ネットと共働して本計画の調査・研究をするために、係長、課長補佐、公募職員ら20人（平成13年度は48人）からなるまち研があります。

まち研委員は、平成14年度には市民ネット委員と合同した分科会に参加し、平成15年度にはプロジェクトチームや各種委員会に参加して、共働してきました。

まち研の委員名簿を以下に示します。

氏名	平成13年度	平成14年度 分科会	平成15年度プロジェクトチーム、委員会 (★印はプロジェクトリーダー)	氏名	平成13年度	平成14年度 分科会	平成15年度プロジェクトチーム、委員会 (★印はプロジェクトリーダー)
青山 正美	社会教育課	社会教育課、遊びと学び	スポーツ課、小学校区コミュニティ	武田 健一	下水道課	下水道課、水	(事務局)
青山 雅道	水と緑の課 (事務局)	(事務局)	産業振興課、セントラルパーク、小学校区コミュニティ	武田 輔之	—	—	社会教育課、親水基準、環境基本条例づくり専門委員会
赤坂 義宏	政策推進課	—	市民交流課、源流域元気	武田 信子	市民窓口課	—	—
浅井 正子	税務課	—	—	只井 昭	収納課	収納課、遊びと学び	収納課—総務課、農業公園
安彦 直美	総務課 (公募)	福祉推進課、コミュニティ	福祉推進課、小学校区コミュニティ	遠松 誠	総務課	—	—
池之内 弘	社会教育課	—	—	戸田 博典	建設課	建設課、まち	—
石川 誠司	—	—	環境課(事務局)、エコ生活	豊田 猛	下水道課 (公募)	—	—
石川 雅之	政策推進課	政策推進課(事務局)、コミュニティ	政策推進課(事務局)、源流域元気、市民ネットNPO法人化、広報委員会	中川 昭利	維持管理課	—	—
市川佐恵子	児童課	—	—	中根 和成	財政課	—	—
伊東 幸仁	産業振興課	学校教育課、緑	学校教育課、農業公園、小学校区コミュニティ	中村 充孝	会計課 (公募)	会計課、遊びと学び	会計課、市民ネットNPO法人化
稲吉 新平	長寿支援課	—	—	中山 康	—	環境課(事務局)、ライフスタイル	産業振興課、環境情報
今井こず恵	人事広報課 (公募)	職員課、水	職員課、源流域元気	萩野 一志	区画整理課	区画整理課、まち	区画整理課、みどりいっぱい、セントラルパーク(★)
梅村 光俊	—	長寿支援課、コミュニティ	市民交流課、小学校区コミュニティ	長谷川義弘	産業振興課	—	—
岡田 剛	福祉推進課 (公募)	福祉推進課、ライフスタイル	福祉推進課、環境情報	福岡 有子	社会福祉協議会	—	—
柏木 晶	税務課 (公募)	—	—	福安 嘉久	スポーツ課	スポーツ課、コミュニティ	児童課、小学校区コミュニティ
加藤 慎司	環境課	財政課、ライフスタイル	財政課、みんなにやさしい交通	星野 千鶴	人事広報課	政策推進課、緑	—
河村 秀根	総務課 (公募)	総務課、水	総務課、源流域元気、つつしのんびり村	堀之内美奈子	健康推進課	—	—
沓名 学	社会教育課 (公募)	—	—	牧 茂久	都市計画課	—	—
小出 誠二	児童課 (公募)	—	—	牧野かおる	学校教育課	児童課、遊びと学び	児童課、おまかせ！エコ共育
小林 正信	人事広報課	—	—	松田 正子	政策推進課	市民交流課、ライフスタイル	—
桜井 正弘	下水道課	—	—	水野 隆史	財政課	—	—
柴田 悠次	保健年金課	保険年金課、水	—	三角 良栄	都市計画課 (公募)	まちづくり推進課、まち	まちづくり推進課、細街路のまちなみ(★)、条例専門委、環境寄合実行委、ゆの編集委、日進環境早春催事実行委
志水 浩二	産業振興課	産業振興課、緑	建設課、農業公園、みどりいっぱい	宮地 勝志	福祉推進課	—	—
杉浦 敏	都市計画課	—	—	村上 慎一	環境課	環境課(事務局)、まち	環境課(事務局)、エコカー(★)、おまかせ！エコ共育、環境基本条例づくり専門委員会
鈴木 聖児	建設課	—	—	村瀬 周孝	維持管理課	水と緑の課(事務局)、緑	水と緑の課(事務局)、東部丘陵自然公園、みどりいっぱい
鈴木 直美	議事課	—	—	山田 幹雄	総務課	—	総務課、農業公園、市民ネットNPO法人化

(4) 環境基本計画協議会

市民ネットが作成する計画案に関し専門的、実践的見地から情報提供、相談及び助言をするために、学識経験者、各種団体代表、事業者からなる環境基本計画協議会を設置しました。

協議会の委員名簿を以下に示します。

(平成 14～15 年度現在)

氏名	所属等	氏名	所属等
宇佐見大司	愛知学院大学教授(専門:民法、環境法)	白上 永	天白川で楽しみ隊、不登校児のための心のやすらぎ処「オアシス」代表
大和田道雄 (会長)	愛知教育大学教授(専門:地域環境、主に大気)	弟子丸富江 (副会長)	日進リサイクルネットワーク
加藤 金洋	岩藤川愛護会、農業者	中野 利夫	豊精密工業株式会社、ISO14001認証取得事業所
鎗木 義則	中央可鍛工業株式会社、ISO14001認証取得事業所	水嶋 義弘	日進市商工会
鬼頭 弘	日進岩藤川自然観察会代表	村田 尚生	愛知学院大学助教授(専門:都市計画、まちづくり)
		渡辺 仁司	日進自然観察会会長

(5) こどもプロジェクト

こどもプロジェクトは、子どもも一人の市民と考え、子どもが環境まちづくりに対して参加できる場です。主な対象は小学校高学年から中学生です。

環境基本計画づくりへの参加としては、セカンドステージとして、「子どもの視点を活かした環境まちづくり」を具体的に進めるために、それぞれの興味により3つのグループに分かれ、こどもサポーターが支援しながら、できる限り子どもの自発的な行動を大切に、テーマについての学びと解決に向けた取組を行いました。

そのセカンドステージを修了したメンバーを以下に示しました。

(平成 14 年度現在)

氏名	所属チーム	氏名	所属チーム
加藤 万稀	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」	内藤 綾乃	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」
小室 真依	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」	内藤 美里	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」
斉藤 彩佳	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」	西尾 加奈	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」
佐伯 知香	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」	西村 隆志	不法投棄壊滅プロジェクトチーム「デリートカップパース」
澤田 夢歩	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」	野末 成彦	不法投棄壊滅プロジェクトチーム「デリートカップパース」
島村 一輝	地球温暖化オゾン・プロジェクトチーム「調べ隊」	林 奈緒子	自然愛護プロジェクトチーム「ミラクルフラワーキッズ」
田川 和樹	地球温暖化オゾン・プロジェクトチーム「調べ隊」	本多 隆之	不法投棄壊滅プロジェクトチーム「デリートカップパース」
玉置 哲也	不法投棄壊滅プロジェクトチーム「デリートカップパース」	松川 明都	地球温暖化オゾン・プロジェクトチーム「調べ隊」

(6) 分科会・プロジェクト・各種委員会

市民ネットとまち研においては、全体で集まって会議をする他、平成14年度は6つのテーマに分かれた分科会活動、平成15年度は、15のプロジェクトに分かれたプロジェクト活動を行い、計画についての調査・研究や具体的な行動につなげるための取組をしてきました。

また、一時的なイベントや専門的に研究するもの、横断的に考えるものについては、次の各種委員会を組織し運営してきました。

- | | | |
|--------------|--------|----------------------|
| ● 一時的なイベント | 平成14年度 | ・かんきょう談話会実行委員会 |
| | 平成15年度 | ・環境まちづくりホットトーク実行委員会 |
| ● 専門的に研究するもの | 平成15年度 | ・環境寄合実行委員会 |
| | 平成15年度 | ・日進環境早春催事実行委員会 |
| ● 横断的に考えるもの | 平成13年度 | ・環境基本条例づくり専門委員会 |
| | 平成14年度 | ・運営を考える会（有志） |
| | 平成15年度 | ・運営委員会（6テーマリーダーと有志） |
| | | ・プロジェクト運営委員会（PJリーダー） |
| | | ・広報委員会 |
| | | ・「ゆの」編集委員会 |

(7) 事務局・スタッフ

本計画づくりの事務局は、水と緑の課と環境課があたりました。

また、事務局と共働するスタッフとして、プロポーザルで選ばれた会社及びその協力事務所のメンバー、並びに子どもプロジェクトでは関連NPO法人のメンバーなどが携わりました。

事務局・スタッフの名簿を以下に示します。

氏名	所属など	氏名	所属など
塚本 国光	水と緑の課課長(平成13年度)	山中 令子	(特活)NIED・国際理解教育センター代表、ファシリテーター担当
加藤 保之	水と緑の課課長(平成14～15年度)	佐藤 亮	環境科学(株) 自然環境調査担当
青山 雅道	水と緑の課課長補佐(平成13～14年度)	原 京子	(特活)子どもNPO 子どもプロジェクトコーディネーター
武田 健一	水と緑の課課長補佐(平成15年度)	桜井 温子	(特活)子どもNPO 子どもプロジェクト子どもサポーター
杉浦 淳司	水と緑の課係長(平成13～15年度)	小島 千春	(特活)子どもNPO 子どもプロジェクト子どもサポーター
鳥居 泰秀	水と緑の課主事(平成13～15年度)	具 ゆり	(特活)子どもNPO 子どもプロジェクト子どもサポーター
福岡 滋之	環境課課長補佐(平成13～15年度)	河尻 英子	(特活)子どもNPO 子どもプロジェクト子どもサポーター
下郷 正人	(株)創建環境エンジニアーズ 総括責任者	島村 紀代美	ハート・ステーション 子どもプロジェクト子どもサポーター
川合 真二	(株)創建環境エンジニアーズ 主任技術者	玉置 ひろみ	ハート・ステーション 子どもプロジェクト子どもサポーター
定金 正芳	(株)創建環境エンジニアーズ スタッフ	山内 裕美	ハート・ステーション 子どもプロジェクト子どもサポーター
水野 裕美	(株)創建環境エンジニアーズ スタッフ		

注)まち研とほぼ同じ立場で参加する事務局員を除く

2 策定経過

(1) 4つのステップ

本市では3年間をかけて市民・市職員の共働により、「市民が市民に説明できる環境基本計画づくり」というキャッチフレーズで本計画づくりに取り組んできました。

その中には、「計画策定の後、地域で市民主体の環境まちづくりが進むよう、個々の持ち味を發揮しながらお互いから学びあい共働できる市民のつながりを作り出すこと」と、「計画づくりを契機として、対立や不信の関係になりがちだった市民と市職員の新しい関係性を作り出すこと」という願いが込められていました。

その願いを実現するため、次の4つのステップで進めてきました。

- ステップⅠ＝お互い知り合い参加型で環境と共働を学ぶ
- ステップⅡ＝市民と市職員が共働し計画の基本を決める
- ステップⅢ＝主体的分科会活動で計画の骨格をつくる
- ステップⅣ＝重点プロジェクトを練り市民が市民に説明する

● ステップⅠ＝お互い知り合い、参加型で環境と共働を学ぶ（平成13年8月～平成14年1月）

ステップⅠでは、市民ネットとまち研は別々に、次のねらいをもって進めました。

- 参加型を通して相互理解を深め、市民ネットのメンバー間、市民と市職員間の信頼関係を築く。
- 環境まちづくりを総合的かつ有効な取組にするために、理解しておく必要のある環境の基本概念（循環、持続可能性、多様性など）を確認し、共有する。
- 多様な価値観を持つ人々が、その多様性を受け入れながらも共通の目標に向かって共働するための「参加のためのコミュニケーションスキル」の向上をはかる。

● ステップⅡ＝市民と市職員が共働し、計画の基本を決める（平成14年2月～5月）

ステップⅡでは、実際に市民と市職員が顔を合わせ、次のことを行いました。

- 市民と市職員の共働のための約束づくり
- 環境に関する課題出しと分科会テーマ分け
- 分科会の人員配置と平成14年度の活動計画づくり
- 市民ネット有志と事務局・スタッフによる「運営を考える会」での運営検討
- こどもプロジェクトイベント「にっしんのハリーポッターたちと賢者の砦」

● **ステップⅢ＝主体的分科会活動で計画の骨格をつくる（平成 14 年 6 月～平成 15 年 3 月）**

ステップⅢでは、概ね月 1 回の全体会・合同分科会、随時開催される分科会、イベントの実行委員会により、次のような計画づくりの活動を行ってきました。

- 分科会ごとの環境課題の優先順位付けと調査・学習
- 全体会と分科会によるビジョンのイメージづくり
- 分科会ごとのビジョンを実現するために必要な方策出し（因果関係図）
- 分科会ごとの重点プロジェクトの選定
- 中間報告書素案づくりと公表
- アンケート調査（市民、子ども、事業者、農業者、樹林地所有者）
- 分科会リーダーと有志による「運営委員会」での運営検討
- 市民まつり、かんきょう談話会、環境まちづくりホットトークによる市民PR
- 子どもプロジェクトファーストステージ「土地利用計画イメージづくり」
- 子どもプロジェクトセカンドステージ「3つの環境まちづくりテーマで活動」

● **ステップⅣ＝重点プロジェクトを練り、市民が市民に説明する（平成 15 年 4 月～平成 16 年 2 月）**

ステップⅣでは、絞り込んだ重点プロジェクトの広がりを作るため、新たな市民ネットの参加者を募り、月 1 回の全体会、随時開催される 15 のプロジェクト活動、並行して環境まちづくり基本条例づくり、イベントの実行委員会により、次のような計画・条例づくりの活動を行ってきました。

- 計画の進行管理に役立つ環境指標と数値目標づくり
- 重点プロジェクトの絞り込みと 15 のプロジェクトチームによる重点プロジェクトの主体性、合意形成、共働性の向上による実効性の確保
- 市民主体の環境まちづくり組織としての市民ネットNPO法人化の検討
- 中間報告書素案の見直しと計画案の作成
- プロジェクトリーダーによる「プロジェクト運営委員会」での運営検討
- 古くから住む市民との対話を進めるための「環境寄合」の開催（4 地区）
- 環境まちづくり基本条例づくり専門委員会による市民参加型条例づくり
- 市民が市民に計画づくりを説明するための広報紙『にしんら〜ぶっ』の発行
- 市民が市民に計画を説明するための本計画やわか版『ゆの』の市民・市職員による編集委員会での作成
- 最終的な成果発表の場「日進環境早春催事」の開催

(2) 年表

2001年度(平成13年度)年表

ステップ0 準備段階

- 04/17 市民・職員参加の考え方を決定
- 05/11 委託業務をプロポーザル方式に決定
- 06/29 プロポーザルを実施し業者を特定
- 07/01 広報に基づいて市民ネット委員募集
- 07/06 コンサルタント第1回打合せ(以降約100回)
- 07/15 環境基本計画説明会

ステップI 知り合い、参加型で環境と共働を学ぶ

- 08/07 第1回市民ネット(約50人で発足)
 - 以降、ステップIは第14回まで
 - ・知り合う
 - ・多様な視点で環境概念を学ぶ
 - ・対立の建設的解決方法を学ぶ
 - 08/28 番外アイスブレイク(全5回)
 - 10/01 第1回環境まちづくり推進会議(以降適宜)
 - 10/04 身近な自然調査(東小・西小協力)
 - 10/22 自然環境調査開始～4季市内19区域～
 - 10/26 第1回まち研(48人で発足)
 - 以降、ステップIは第7回まで
 - ・まち研の役割の確認
 - ・多様な視点で環境概念を学ぶ
 - ・対立の建設的解決方法を学ぶ
-
- 01/09 第1回環境まちづくり調整会議(以降適宜)
 - 01/17 こどもプロジェクト第1回打合せ



▲ 第1回市民ネット



▲ 第3回まち研

ステップII 市民と市職員が共働し、計画の基本を決める

- 01/28 市民ネット番外(市職員との共働で)
- 02/07 第1回運営を考える会(全4回)
- 02/21 第1回環境連続講座(全5回)
- 02/22 ファシリテーター講座(全2回)
- 03/03 市民ネット・まち研合同会議(初顔合せ)
 - 以降、ステップIIは、H.14.5/25まで
 - ・市民と市職員の共働の約束づくり
 - ・日進の環境課題の抽出
 - ・分科会テーマ決めと人員配置
 - ・H.14年度の活動計画づくり
- 03/17 こどもプロジェクトプレイベント
「にっしんのハリーポッターたちと賢者の砦」



▲ 市民と市職員の初顔合わせでのゲーム

2002 年度（平成 14 年度）年表

04/27 第 17 回市民ネット（05/14 第 18 回）
まち研が再編中に 2 回単独開催

05/21 H.14 年度第 1 回まち研
 〔 年度が変わって 20 人に再編
 以降、全体で 3 回と分科会別 6 回
 単独開催し共働の意義等を確認しあう 〕

ステップⅢ 主体的分科会活動で計画の骨格をつくる

05/25 H.14 年度第 1 回全体会（全 9 回）
共働の約束決定、分科会メンバー決定

05/27 第 1 回「ライフスタイル」分科会（全 25 回）

05/29 第 1 回「コミュニティ」分科会（全 29 回）

05/30 第 1 回「緑」分科会（全 28 回）

05/31 第 1 回「水」分科会（全 17 回）

06/04 第 1 回「遊びと学び」分科会（全 26 回）

06/05 第 1 回「まち」分科会（全 26 回）
 〔 分科会ごとに、各テーマについて
 調査・学習、ビジョン等の検討、
 具体的プロジェクトの提案を行う 〕

05/31 第 1 回運営委員会（全 8 回）
分科会リーダー・サブリーダーで構成

06/08 第 1 回合同分科会（全 3 回）

06/29 こどもプロジェクトファーストステージ開始

07/20 第 2 回全体会
 〔 委嘱式（費用弁償 500 円／回支給通知）
 全体会計画、分科会活動計画の発表 〕

08/26 こどもプロジェクトセカンドステージ開始

09/02 アンケート調査開始

09/14 第 3 回全体会～計画のビジョンの検討～

10/06 秋の野山を遊びつくそう！イベント

10/19 フィリピンのまちづくり交流会（於 AHI）

11/10 にっしん市民まつりで環境基本計画 P R

12/07 第 6 回全体会～分科会活動発表～

12/23 忘年会～赤池の味噌蔵にて

12/25 第 1 回かんきょう談話会実行委員会（全 3 回）



▲ ライフスタイル分科会



▲ 第 1 回運営委員会



▲ かんきょう談話会

01/25 第 7 回全体会～プログラムの検討～

01/29 おおつ環境フォーラム視察交流

02/04 第 1 回かんきょう談話会（全 4 回）

03/17 環境まちづくりホットトーク実行委員会（全 2 回）

03/25 第 1 回環境基本計画協議会（全 4 回～H.15 年度）

03/29 にっしん未来予想図で「中間報告書素案」発表

2003 年度（平成 15 年度）年表

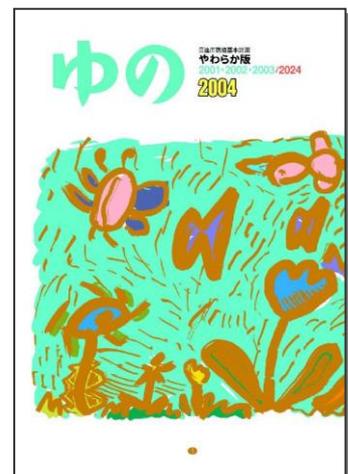
ステップⅣ 重点プロジェクトを練り、市民が市民に説明する

- 04/19 H.15 年度第 1 回全体会（全 13 回）
 05/17 第 2 回全体会～重点プロジェクト決定～
 05/26 第 1 回環境基本条例づくり専門委員会（全 16 回）
 05/28 第 1 回プロジェクト運営委員会（全 10 回）
 06/01 みどりいっぱい P J 始動（16 回）
 06/03 市民ネット N P O 法人化 P J 始動（25 回）
 小学校区コミュニティ P J 始動（13 回）
 農業公園 P J 始動（19 回）
 親水基準 P J 始動（6 回）
 06/04 にっしんのんびり村 P J 始動（23 回）
 環境情報 P J 始動（15 回）
 東部丘陵自然公園 P J 始動（15 回）
 06/06 エコ生活 P J 始動（16 回）
 06/07 おまかせ！エコ共育 P J 始動（12 回）
 06/09 エコカー P J 始動（7 回）
 06/10 みんなにやさしい交通 P J 始動（8 回）
 セントラルパーク P J 始動（9 回）
 06/11 源流域元気 P J 始動（14 回）
 06/13 細街路のまちなみ P J 始動（11 回）
 [以降、調査・研究、実践活動等を通じて、
 重点プロジェクトの事業計画を立案]
 06/18 第 4 回全体会～市民ネット新規参加者 20 人～
 「にっしんら～ぶっ」創刊号発刊（全 10 号）
 06/24 第 1 回環境寄合実行委員会（全 12 回）
 08/13 広報委員会始動（8 回）
 08/29 環境寄合西地区開催（全 4 回）
 09/14 こどもプロジェクト新企画スタート（3 カ年計画）
 09/20 第 7 回全体会～環境指標・数値目標検討開始～
 10/04 天白川の河川敷で遊ぼう！イベント
 11/29 第 9 回全体会～中間報告書素案の見直し～
 N P O 法人にっしん市民環境ネット設立総会
 12/07 愛知学院大学生主催カラーパレット 2003 に参加
 12/09 テーマ別関係課との意見交換会（全 6 回）
 12/13 忘年会～赤池の味噌蔵にて
 12/20 第 10 回全体会～計画の最終構成の検討～
 12/28 第 1 回日進環境早春催事実行委員会（全 5 回）
 12/28 第 1 回「ゆの」編集委員会（全 11 回）

 01/17 第 11 回全体会～計画案の重点プロジェクトの検討～
 01/29 多治見市視察
 02/14 第 12 回全体会～計画案の最終提案～
 02/29 日進環境早春催事で成果発表、「ゆの」配布
 03/20 第 13 回全体会～3 年間の修了～



▲ 環境寄合



▲ 環境基本計画やわらか版「ゆの」

3 市民・市職員共働のための約束

この約束は、市民ネット(市民)、まち研(市職員)の参加者が自らが提案したものをまとめたものです。

000 前提

100 参加しやすい「場」づくりと相互理解のための約束

- 110 同じ目的を共有する仲間
- 120 効果的なコミュニケーション
- 130 違いを活かしあう
- 140 積極的な関係づくり

200 建設的な話し合いと合意形成を進めるための約束

- 210 人の未来と幸せの視点
- 220 着実な合意形成
- 230 参加の技術
- 240 一人ひとりを大切に

300 スムーズな会議運営を継続するための約束

- 310 時間管理
- 320 会議情報の共有
- 330 作業の分担

前提

日進市の市民と市職員が、それぞれの経験知恵を活かし合い、オリジナリティーあふれ実効性ある環境基本計画を策定するための約束にしよう。

そのために、

- 私たちの市民プランと言えるように主体的に取り組もう
- 市民プランの着実な実現が図られるようなシステムを考えよう
- 市民プランの検証／評価に責任を持とう
- この約束は必要に応じて更新しよう

制 定：平成14年 5月25日

100 参加しやすい「場」づくりと相互理解のための約束

110 同じ目的を共有する仲間

- 111 共通の目的、願いを持つ仲間であるという認識を大切にしよう
- 112 楽しさ、満足感、夢のある活動にしよう
- 113 プライバシーを守ろう

120 効果的なコミュニケーション

- 121 攻撃的／批判的ではない伝え方（私メッセージ）で伝えよう
- 122 傾聴しよう（共感的に聴く）
- 123 分からないことは質問しよう
- 124 感情も上手く伝えよう
- 125 笑顔で緊張をほぐそう

130 違いを活かしあう

- 131 それぞれの持ち味、得意分野を活かし、持っている情報を共有しよう
- 132 異なる意見・少数意見も大切にしよう
- 133 固定観念から離れよう
- 134 相手の立場にも立ってみよう

140 積極的な関係づくり

- 141 楽しい明るい雰囲気を各自がつくろう
- 142 お互いよく知り合う努力をしよう
- 143 計画づくりの場以外でも積極的に交流をはかろう
- 144 積極的に参加しよう（参加した人が一番お得！）
- 145 遊び心を大切にしよう



200 建設的な話し合いと合意形成を進めるための約束

210 人の未来と幸せの視点

- 211 「未来にとってよいこと」を基準に考えよう
- 212 地球の視点に立って考えよう
- 213 理想を持って現実を考えよう
- 214 あついハートとクールな頭でいよう

220 着実な合意形成

- 221 計画づくりの2つのミッション※を確認しよう
- 222 話し合いの論点を明確にしよう
- 223 市民、市職員 それぞれの役割、知識、経験を尊重し活用しあおう
- 224 グループで合意した意見は尊重しよう

230 参加の技術

- 231 アンテナを伸ばし、多様なデータを収集活用しよう
- 232 意見はなるべく具体的に出そう
- 233 多様な視点から考えてみよう
- 234 批判より質問、代案や提案を出そう
- 235 提案はメリット・デメリット両面から検討してみよう
- 236 みんなが理解できる言葉を使おう
- 237 参加型の手法を活用しよう（カード式分類、ブレインストーミング等）
- 238 休憩、雑談の時間を取ろう

240 一人ひとりを大切に

- 241 貢献できることはたくさんある！主体的に関わろう
- 242 価値観は多様であることを理解しよう
- 243 対等な立場での意見交換をしよう
- 244 公平な発言の機会をつくろう
- 245 フェアプレーの精神でいこう



300 スムーズな会議運営を継続するための約束

310 時間管理

- 311 開始、終了、発言等の時間を守ろう
- 312 遅刻、欠席は事前に連絡しよう

320 会議情報の共有

- 321 前回の復習（内容把握）をしよう
- 322 個別にした調整の報告をしよう
- 323 記録を残して共有しよう

330 作業の分担

- 331 作業はみんなで分け合おう
- 332 負担の片寄らない役割分担をしよう
- 333 環境まちづくり研究会は各セクションの連絡調整をしよう
- 334 市民環境ネットは市民相互の意見調整をしよう

※：2つのミッション

ミッション1

- ・ 21世紀にふさわしい環境問題に対する取組として、市民、事業者、行政（市）が一体となり、総合的かつ長期的な『環境指針』を確立すること
→環境指針の3要素：①ビジョン、②プログラム、③マネジメント

ミッション2

- ・ 指針が指針として、『実効性』を持つための基礎をつくること
→実効性を持つための3要素：①主体性、②合意形成、③共働性



4

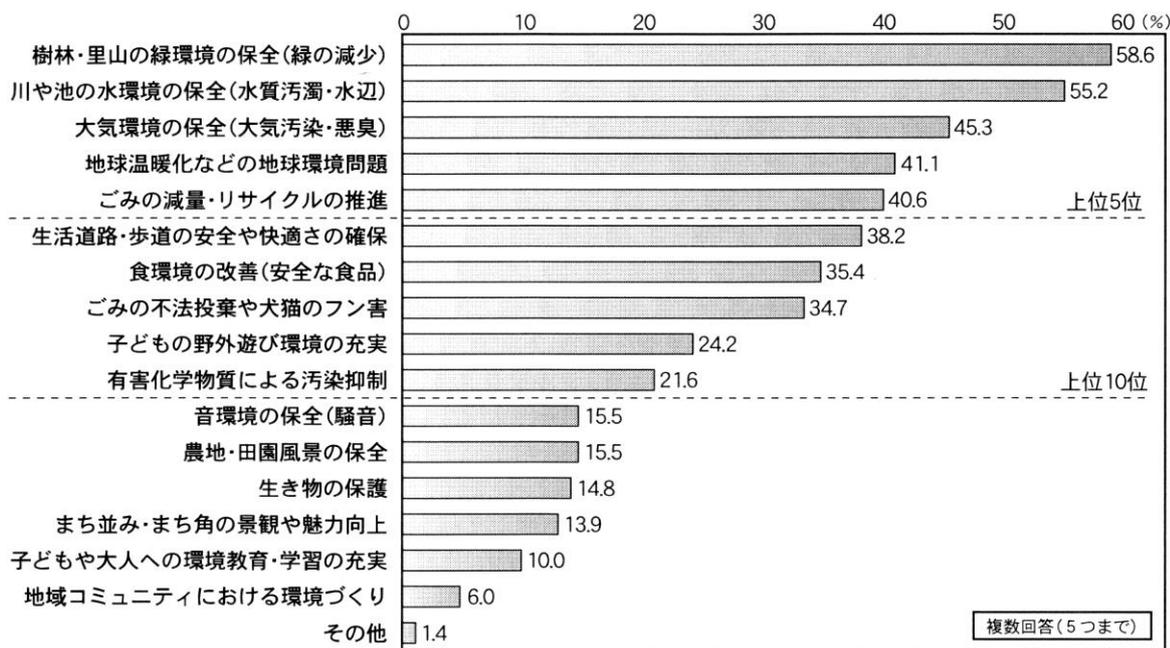
アンケート調査結果の抜粋

平成14年度に実施したアンケート調査結果の抜粋を示します。

調査対象

- (1) 市民 / 18歳以上の市民から無作為抽出した3,000人〔回収率55%〕
- (2) 子ども / 小学5年生、中学2年生の全員1,338人〔回収率96%〕
- (3) 事業者 / 従業員規模の大きい事業所上位300社〔回収率54%〕
- (4) 農業者 / 経営耕地面積の大きい農業者を中心に200人〔回収率74%〕
- (5) 樹林地所有者 / 保安林を除く所有面積の大きい地権者上位200人〔回収率56%〕

どんな環境問題に関心がありますか？



▲市民全体の関心ある環境問題

市民全体(子どもは含まず)では、1位が「樹林・里山の緑環境」、2位が「川や池の水環境」、3位が「大気環境」となり、身近な自然の大きな要素の緑、水、大気に対する関心が高くなっています。ついで、「地球温暖化」、「ごみ減量・リサイクル」といった地球規模の環境問題への関心が高いという結果でした。

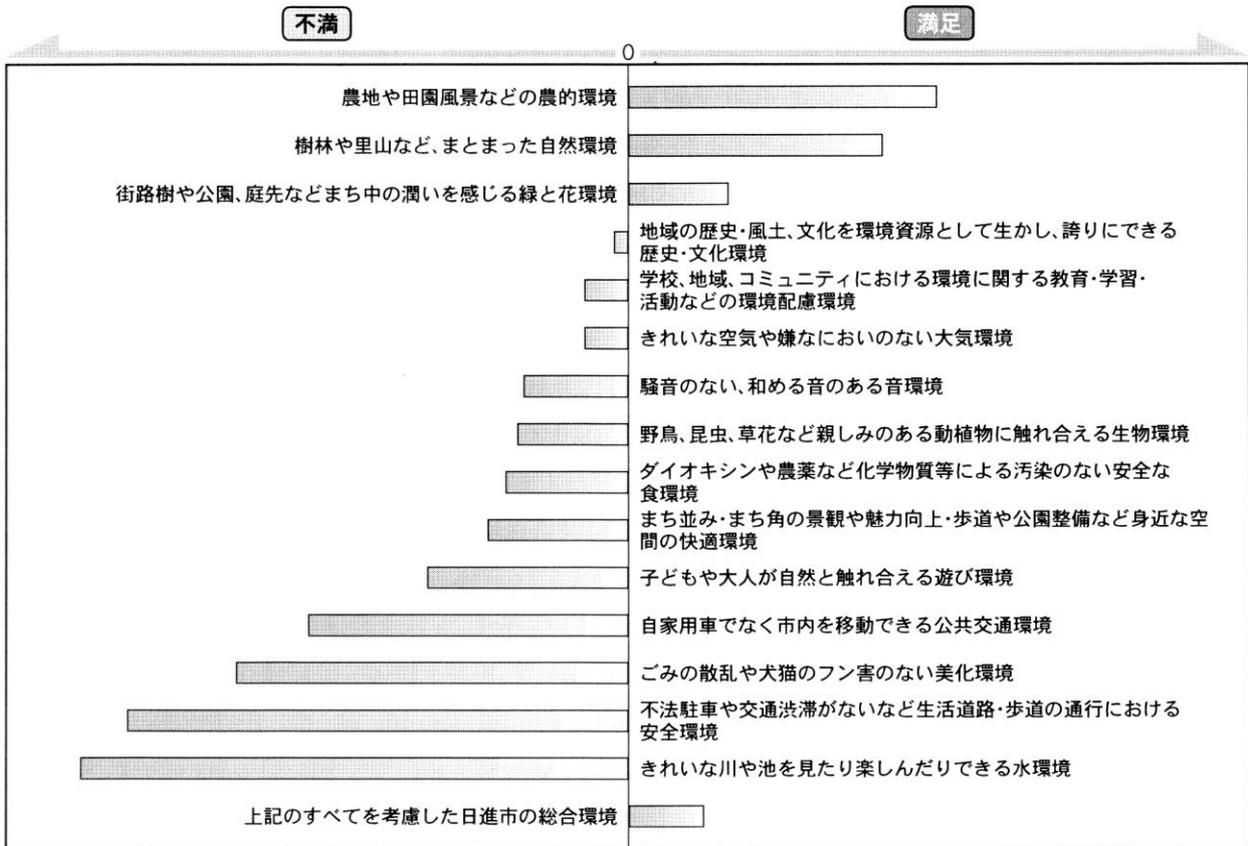
環境問題への関心を男女別、年齢層別で見ると…

順位	女性	男性	若年層 (49歳以下)	高年層 (50歳以上)	子ども
1	緑環境の保全	水環境の保全	緑環境の保全	緑環境の保全	川や池の水が汚れていること
2	水環境の保全	緑環境の保全	水環境の保全	水環境の保全	まとまった緑が減っていること
3	大気環境の保全	大気環境の保全	地球温暖化など	大気環境の保全	地球温暖化など地球環境が危ないこと
4	食環境の改善	道路・歩道の安全や快適さ	大気環境の保全	ごみの不法投棄やフン害	自動車やバイクなどで騒がしいこと
5	地球温暖化など	ごみ減量・リサイクル	ごみ減量・リサイクル	道路・歩道の安全や快適さ	ごみや犬のフンでまちが汚れること

▲属性別の関心のある環境問題上位5位

男女別にみると、女性の4位に「食環境」、男性の4位に「道路・歩道の安全や快適さ」が入っていることが特徴です。年齢層別にみると、高年層で「ごみの不法投棄やフン害」、「道路・歩道の安全や快適さ」といった身近なまちの快適さに関することへの関心が上位になっています。一方、子どもと若年層では、3位に「地球温暖化など」が入り、未来の地球をより憂いているといえます。また、市民全体では11位の「騒音」が、子どもでは4位に入っていることが特徴的です。

まわりの身近な環境に満足していますか？

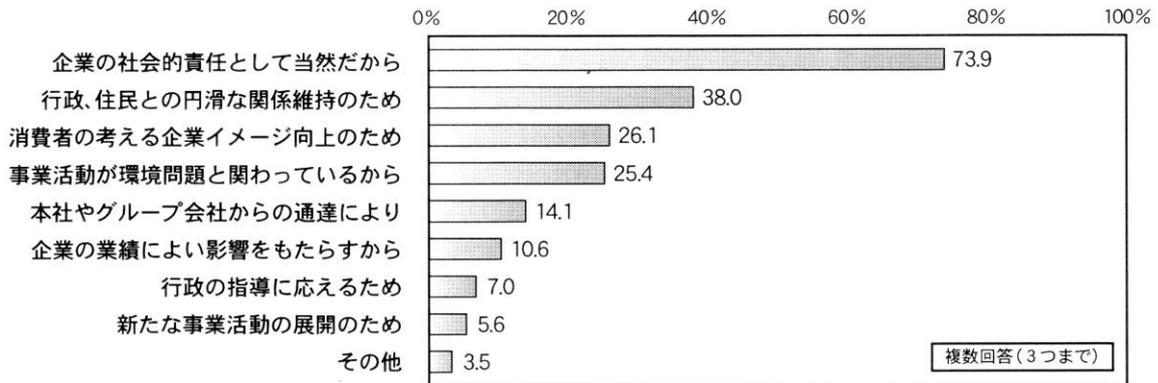


▲身近な環境への満足度(市内平均)

15ある環境要素のうち、少しでも満足となっているのは「農的環境」、「自然環境」、「緑と花環境」の3つです。特に不満の3要素は、「水環境」、「安全環境」、「美化環境」です。しかし、すべてを考慮した総合環境はどちらかといえば満足としていて、満足となっている環境要素が不満のものより今のところ勝っているといえます。このことから不満とされている環境要素の改善だけでなく、満足となっている環境要素の保全が大切であるといえます。市内の7つの小学校区別に見た傾向は次のとおりです。

<p>西小学校区</p> <p>「緑と花環境」が不満の領域となっています。市内平均と比べて「音環境」、「大気環境」の満足度がより低くなっています。7学区で唯一、総合環境がわずかながら不満となっています。</p>	<p>東小学校区</p> <p>市内平均と比べて、「自然環境」の満足度がより高くなっている一方、「快適環境」の満足度はより低くなっています。</p>	<p>北小学校区</p> <p>市内平均と比べて「歴史・文化環境」、「大気環境」が満足となっています。</p>	<p>南小学校区</p> <p>市内平均と比べて「音環境」、「大気環境」が満足となっています。</p>
<p>相野山小学校区</p> <p>「音環境」、「生物環境」、「大気環境」、「環境配慮環境」が満足となっています。その他、市内平均と比べて、より満足度が高くなっている要素が多くなっていますが、「公共交通環境」だけは満足度がより低くなっています。</p>	<p>香久山小学校区</p> <p>「快適環境」、「大気環境」、「音環境」、「遊び環境」、「環境配慮環境」が満足となっています。市内平均と比べて、「緑と花環境」、「快適環境」の満足度が非常に高くなっている一方、「農的環境」の満足度はより低くなっています。</p>	<p>梨の木小学校区</p> <p>「緑と花環境」が不満となり、市内平均と比べて「音環境」、「緑と花環境」、「遊び環境」、「自然環境」の満足度がより低くなっています。一方、「美化環境」、「公共交通環境」の満足度はより高くなっています。</p>	

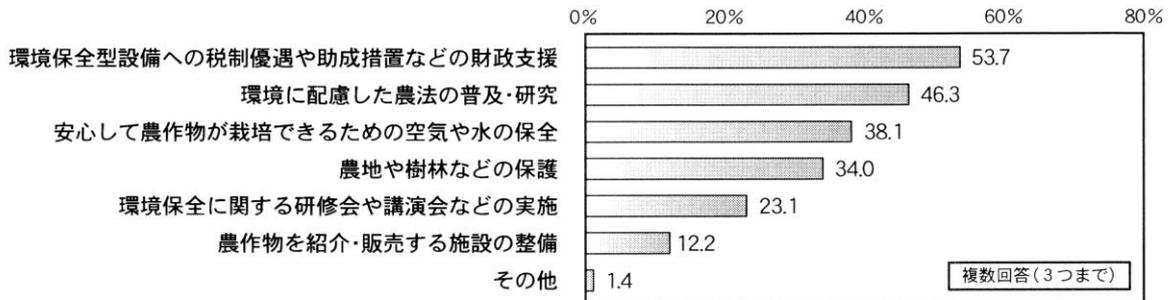
事業所が環境対策に取り組む理由は？



▲事業所が環境対策に取り組む主な理由

「企業の社会的責任として当然だから」が最も高くなっています。比較的規模の大きい事業所が調査の対象であることを前提としても、多くの事業所では、環境対策を社会的責任として取り組んでいこうとしていることがうかがえます。

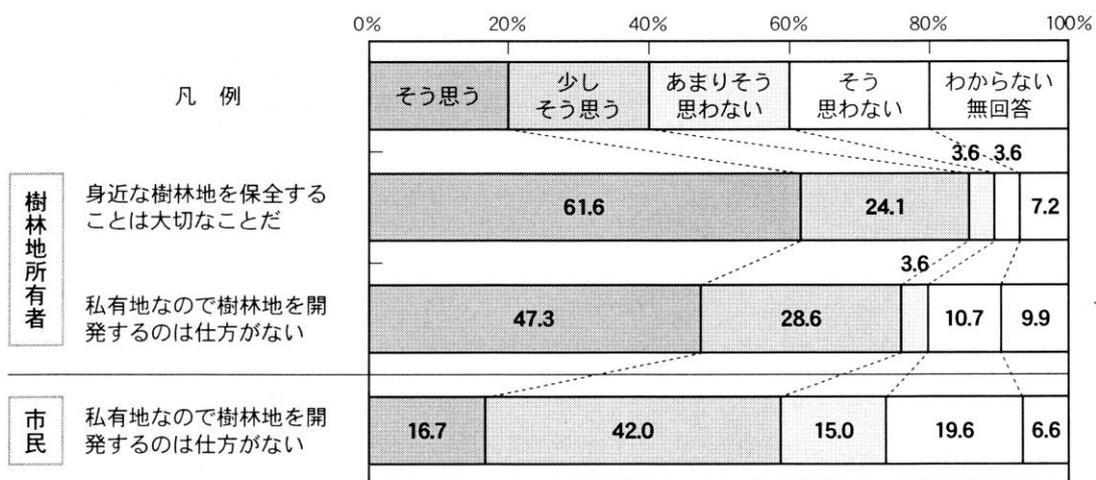
農業者が環境保全のために期待する行政施策は？



▲農業者が環境保全のために期待する行政施策

「環境保全型設備への財政支援」、「環境に配慮した農法の普及・研究」が約半数を占め、設備投資も含め、日進市にあった環境保全型農業の技術の普及が求められているといえます。ついで、「空気や水の保全」、「農地や樹林などの保護」といった農業を営む上での周りの環境を守る取り組みが求められています。

樹林地所有者の樹林地の保全と開発に対する意見は？



▲樹林地の保全と開発に対する意見は？

『身近な樹林地を保全することは大切なことだ』に対して、「そう思う」と考える人は約62%と高くなっていますが、『私有地なので樹林地を開発するのは仕方がない』に対して、「そう思う」と考える人が約47%となっています。これは、保全の必要は認められるが、いざというときに開発するのは仕方がないというのが樹林地所有者の正直な気持ちといえます。これに対して、市民は『開発するのは仕方がない』に対し、「そう思う」と考える人はわずか17%であり、さまざまな条件があるものの、基本的な樹林地所有者と市民とのギャップを埋めていくことが樹林地の保全についての課題といえます。

5

平成 20 年度計画短期見直しの経過

検討委員会は、各小学校区毎に開催する地域会議を 3 回、全体会議を 3 回開催し、地域における取組みを中心に検討を行いました。検討の経過を以下に示します。

第 1 回 全体会議 平成 20 年 8 月 24 日

現行の環境基本計画の位置付け、計画策定体制、計画の全体構成などの概要と、今回の計画見直しのねらいについて、事務局より説明を行いました。

その後小学校区を基本として 6 つのグループに分かれ、地域の環境課題についての話し合いを行いました。

第 1 回 地域会議 平成 20 年 9 月 20, 21 日

メンバーの考え、アンケートの結果、これまでの地域プロジェクトの達成状況から、地域のなかでどのような環境問題や課題があるのかを話し合いました。地域の環境問題や課題を環境基本計画の分野別の 6 つのテーマ、「水」、「緑」、「まち」、「ライフスタイル」、「コミュニティ」、「遊びと学び」に沿って分類を行い、地域のなかで取り組みが求められる重要課題を整理しました。

第 2 回 地域会議 平成 20 年 10 月 11, 13, 19 日

第 1 回地域会議で出された地域の課題や意見と環境基本計画分野別計画の対応について確認しました。

「水」、「緑」、「まち」、「ライフスタイル」、「コミュニティ」、「遊びと学び」に分類した地域の環境問題に対して、市民（地域・市民団体）、市民と行政の共働、行政、事業者の 4 つの主体が今後どのように取り組むべきかを話し合い、意見を整理しました。

第 2 回 全体会議 平成 20 年 11 月 24 日

これまでの地域会議の内容をまとめた資料をもとに、それぞれの地域の環境課題と各主体の取り組み方について、発表しあい、意見の共通点や違いを共有しました。

また、各地域で関心の高い環境課題については、環境基本計画の施策の進捗状況や今後の見通しについて、事務局から説明を受け、質疑応答を行いました。

その後、各グループの発表と環境基本計画の施策進捗状況や今後の予定を踏まえ、他の地域との連携や行政との連携を意識しながら、それぞれの地域の取り組みの方向性について話し合いました。

第3回 地域会議 平成20年12月6, 13, 15, 21日

各委員より、市民が主体的に取り組んでいくプロジェクトについて「ねらいや効果」、「具体的な進め方」、「実施場所」などの発表を行い、地域における取組として環境基本計画に反映する内容を検討しました。

第3回 全体会議 平成21年1月25日

これまでの全体会議2回、地域会議3回で示された各地区の環境課題、重点的取組を反映した環境基本計画見直し案を報告し、これに対し、各委員より書面等により、意見の提出がなされました。



以下に委員名簿を示します。

平成20年度 環境基本計画短期見直し検討委員会名簿（各学校区 50 音順）

学校区	氏名	学校区	氏名
西・赤池	浅井 雅治	南・梨の木	大西 武司
	出原 伸平		齋藤 尚文
	出原 英行		高平 和彦
	今井 由一		田原 尚子
	加藤 広司		土方 博
	加納 信行		古川 弘美
	鬼頭 一博		星野 一孝
	鈴木 勇		増田 勇夫
	福住 久		増田 誠
	間瀬 克巳		真野 俊英
	森島 陽子		村瀬 進
	山田 利男		森 健二
	東		青山 博美
伊藤 辰男		鈴木 昭忠	
加藤 末昭		平 進一	
黒川 鈴代		高木 尊	
鈴木 士郎		水野 五郎	
武田 収司		山崎 文雄	
萩野 房子		板元 伸夫	
松谷 務		大谷 純子	
余語 哲夫		櫻庭 陽美子	
北	磯畑 秀隆	香久山	佐藤 一郎
	小野田 利信		對馬 孝
	志水 由紀子		橋本 時人
	塚本 国光		菱田 和夫
	福岡 克二		福西 美智子
	松原 広司		水野 美樹
	諸岡 征之		吉田 義信
	山林 恵美子		

6

平成 25 年度計画短期見直しの経過

計画の見直しにあたっては、市職員による庁内会議を 2 回、策定委員会を 3 回開催し、分野別計画を中心に検討を行いました。検討の経過を以下に示します。

第 1 回 庁内検討会議 平成 25 年 6 月 19 日

見直しのスケジュール及び環境に関するアンケート結果について事務局より説明を行いました。

施策調査票を各課に配布し、記入を依頼しました。

第 2 回 庁内検討会議 平成 25 年 8 月 2 日

環境基本計画に上げていく施策について、各担当部課の職員による 6 つのグループでワーキングを行いました。

第 1 回 環境基本計画策定委員会 平成 25 年 10 月 1 日

第 1 部 計画の策定にあたって、第 2 部 環境の特性と課題、第 3 部 計画の基本目標について事務局より提案説明を行い、審議しました。

第 2 回 環境基本計画策定委員会 平成 25 年 11 月 5 日

分野別計画について事務局より提案説明を行い、審議しました。

第 3 回 環境基本計画策定委員会 平成 25 年 12 月 11 日

重点プロジェクト及び環境指標、数値目標について事務局より提案説明を行い、審議しました。

第 4 回 環境基本計画策定委員会 平成 26 年 1 月 14 日

日進市環境基本計画（平成 25 年度見直し）素案について事務局より提案説明を行い、審議しました。

以下に委員名簿を示します。

平成25年度 環境基本計画策定委員会名簿

学識経験を有する者	森下 英治
	原 理史
事業者	鋏本 英輝
	新海 祥弘
	森内 初美
公募の市民	浅井 達雄
	出原 伸平
	加藤 万里子
市長が必要と認める者	延藤 良春
	三輪 三郎
	横江 秀介
	近藤 誠
	鈴村 義尊

7

環境指標と数値目標の一覧

※平成 15 年度以前及び平成 25 年度の数値は、計画策定時の現状値及び平成 20 年度の短期見直しにおける短期目標値（平成 25 年度）を表す。

A. 川や池の水と水辺

★：川や池などの水質についての満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	24.4	29	34

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
設問「川や池などの水質について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 A 1：河川のBOD平均値

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(mg/l)	2.7~11	5以下	1.5~4.0 (平均値：2.8)	5以下	5以下

- ◇ 算定式：天白川3地点、岩崎川、北新田川、三本木川、折戸川、豊田川の計8地点のBOD平均値。
BODとは、河川汚濁の代表的な指標。
◇ 所管課：環境課把握数値。
◇ 目標値：河川の環境基準にはA~E類型というものがあり、天白川などC類型（BOD5mg/l）であることから、他の河川も同じ水質をめざす。

● 環境指標 A 1：生活排水処理率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	74	88	83	88	93

- ◇ 算定式：下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水施設により生活排水が処理されている人の割合。

$$\text{生活排水処理率 (\%)} = \frac{\text{公共下水道人口} + \text{農業集落排水人口} + \text{合併処理浄化槽人口}}{\text{人口}}$$

- ◇ 所管課：下水道課把握数値。
◇ 目標値：下水道課把握数値。

● 環境指標 A 2：多自然型河川・親水公園等の整備箇所数（累計）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(箇所)	0	1	0	1	10

- ◇ 算定式：国や県の多自然型整備の基準を参考に定義付けする。
◇ 所管課：土木管理課把握数値。
◇ 目標値：現状の長期目標数値を維持。
◇ 備考：市でも整備可能な準用河川でモデル的に実施し、県管理河川では県に改修時に働きかける。

● 環境指標 A 3 :水生生物調査延べ参加者数 (累計)

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	575	1200	2000

- ◇ 算定式：市内で開催する水生生物調査延べ参加者数。
水生生物調査とは、川にすむ生き物を採集し、その種類や数を調べることで、川の水質を判定する調査です。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：年間約 150 人以上の参加者をめざす。
- ◇ 備考：天白川やため池など、水に関する環境共育として推進する。

● 環境指標 A 4 :河川愛護団体数 (累計)

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(団体)	5	13	10	13	20

- ◇ 算定式：市内で活動する河川愛護団体数。
河川愛護団体とは、川とのつながりの中で、地域の活性化・地域環境の美化・子どもたちへの環境教育など活動を持続的に行っている団体です。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：河川愛護団体の 4 倍増をめざす。
- ◇ 備考：現状は、天白川で楽しみ隊・三本木川を元気にする会・日進岩藤川自然観察会・老人クラブ川の会（岩崎川）・折戸川にホタルを飛ばそう会（折戸川）・岩藤川でホタルを育てる会・岩藤 15 日会「川の里親プロジェクト」・野方西天白川愛護会・愛知中央ライオンズクラブ・にしん市民環境ネット。

● 検討・把握指標：河川流量

- ◇ 天白川野方橋で河川水位を常時監視中であるが、多くの地点で定期的に把握することは難しい。

● 検討・把握指標：河川で定期的に回収されたごみの袋数

- ◇ 天白川は天白川で楽しみ隊（月 1 回）、三本木川は三本木川を元気にする会（2 ヶ月に 1 回）

B. 水の風景・水資源

★：身近で水に親しめる場所があると思う市民の割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	34.5	39	42

- ◇ 算定式：市民意識調査（3 年ごとに実施）。
設問「あなたの身近なところに水に親しめる場所がありますか。」で「ある」と回答した市民の割合。

$$\text{市民の割合 (\%)} = \frac{\text{回答数 (「ある」)}}{\text{回答総数 (「ある」 + 「ない」 + 「わからない」)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標B1：ため池の数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(箇所)	46	44	44	現状維持	現状維持

- ◇ 算定式：日進市ため池台帳に記載されているため池の数。
- ◇ 所管課：産業振興課把握数値。
- ◇ 目標値：現状維持をめざす。
- ◇ 備考：市所有は2箇所のみで、あとは民間所有のため池。

● 環境指標B1：1人1日当たりの水道使用量（一般家庭）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(L)	251	238 (5%減)	233	221 (5%減)	210 (10%減)

- ◇ 算定式：一般家庭向け1人1日当たりの水道使用量。

$$1人1日当たりの水道使用量 = \frac{\text{一般家庭水量}(m^3)}{365(\text{日}) / \text{給水人口}(人)}$$
- ◇ 所管課：愛知中部水道企業団把握数値。
- ◇ 目標値：現状値の10%減をめざす。

● 環境指標B2：浄化槽転用補助数（累計）

	H15	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(世帯)	17	160	75	93	108

- ◇ 算定式：浄化槽雨水貯留施設転用費補助金制度における補助件数（累計）。
 浄化槽雨水貯留施設転用費補助金制度とは、公共下水道への接続により不要となった浄化槽を雨水貯留槽へ転用するための工事を行う方に対し、その工事費の一部を補助する制度です。
- ◇ 所管課：下水道課把握数値。
- ◇ 目標値：下水道課把握数値。
- ◇ 備考：雨水タンク補助件数を含む。（雨水タンク補助制度は、平成18年度で修了）

● 検討・把握指標：湧水の数

- ◇ 以前の水分科会の調査によると折戸2地点。
- ◇ 目標については、日進全域の調査を行った上で、それらを維持することをめざして設定する。

● 検討・把握指標：流域の浸水面積

- ◇ 名古屋市も含めた天白川流域での浸水面積。上流部の責任が大きいため、目標は0㎡をめざす。

C. 里山と息づく動植物

★：身近に緑にふれあえる場所があると思う市民の割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	75.8	80	82

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
 設問「あなたの身近なところに緑にふれあえる場所がありますか。」で「ある」と回答した市民の割合。

$$\text{市民の割合}(\%) = \frac{\text{回答数}(\text{「ある」})}{\text{回答総数}(\text{「ある」} + \text{「ない」} + \text{「わからない」})}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。

◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標C1：森林面積

	H15	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(ha)	621	現状維持	654	619	593

- ◇ 算定式：森林面積（根拠：森林法第2条）。
- ◇ 所管課：「土地に関する統計年報」愛知県地域振興部土地水資源課把握数値。
- ◇ 目標値：日進市緑の基本計画（平成23年3月策定）に示される森林面積。

● 環境指標C2：里山保全活動拠点数（累計）

	H15	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(箇所)	3	8	6	8	10

- ◇ 算定式：市内で里山保全活動を行っている里山数。
- ◇ 所管課：都市計画課・学校教育課把握数値。
- ◇ 目標値：里山リーダー養成講座がH14から開始し現在12期目。目標は2年に1箇所活動拠点を増やす計算。
- ◇ 備考：現状は、賢者の森（折戸）・機織池緑地・東小学校里山・鷹見の森（岩崎台）・北高上緑地・梨の木小学校学習林。

● 環境指標C3：大清水湿地に発現するとみられる10種の希少種保護数

	H15	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(件)	—	—	9	10	10

- ◇ 算定式：大清水湿地に発現するとみられる10種の希少種保護数。
大清水湿地とは、日進市の東部丘陵地帯の湿地の一つ。日進市総合運動公園内にあります。
10種の希少種とは、ミズギボウシ・シラマホシクサ・ハルリントウ・トキヨウ・サシロギク・イモコソウ・ホトギミカキグサ・サギソウ・カキラン・ショウジヨウバカマです。
- ◇ 所管課：都市計画課、生涯学習課把握数値。
- ◇ 目標値：大清水湿地に発現すると見られる10種の希少種を保護する。

● 環境指標C4：日進自然遊歩道延長（累計）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(km)	約4.5	15	5	15	30

- ◇ 算定式：日進自然遊歩道の総延長距離
日進自然遊歩道とは、既にある散策路（例：総合運動公園内の散策路）を指定したり、新たに整備し、日進版の自然歩道を創り上げる。
- ◇ 所管課：都市計画課、学校教育課、生涯学習課把握数値。
- ◇ 目標値：10年後の目標は、市境の延長約27km程度は整備するとして設定。

● 検討・把握指標：指標生物の生息・生育数

- ◇ 希少種に限らず大切にしたい動植物を指標生物として設定し、その生息・生育数を定期的に調査し把握する。

● 検討・把握指標：森林に占める竹林の占有率

- ◇ H6の緑のマスタープランでは竹林158.3ha、森林839.6ha→竹林占有率18.9%。
- ◇ 竹が混在している森林をどう扱うかなど算出にあたって技術的な問題もある。

D. 農のある暮らし

★：市内で農業体験をしたことのある市民の割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	19.2	28	32

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）
 設問「あなたは、これまで日進市内で農業体験をしたことがありますか。」で「ある」と回答した市民の割合。

$$\text{市民の割合 (\%)} = \frac{\text{回答数 (「市内で体験したことがある」)}}{\text{回答総数 (「市内で体験したことがある」 + 「市外で体験したことがある」 + 「機会があれば体験したい」 + 「体験したいと思わない」)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
 ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 D 1：農地面積

	H13	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(ha)	539	500 以上維持	470	465 以上維持	452 以上維持

- ◇ 算定式：農地面積＝台帳上の面積「土地に関する統計年表」
 ◇ 所管課：産業振興課把握数値。
 ◇ 目標値：現状維持を目標とすべきだが、現実的には開発中の農地もある。
 土地利用計画では H22 に 452ha（16%減）と計画されているため、その数値を開発の最低限のラインとし以降保全する。
 ◇ 備考：H13 年度、539ha（内訳：田 382ha、畑 157ha）。

● 環境指標 D 1：休耕田の面積

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(ha)	82	65	56	49	41

- ◇ 算定式：休耕田面積＝農業振興地域内の休耕田の面積
 ◇ 所管課：産業振興課把握数値。
 ◇ 目標値：休耕田面積を半減する。
 ◇ 備考：市民による活用などその他の用途を探る。

● 環境指標 D 2：学校給食における地場産物の使用率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(ha)	—	—	57.7	59	60

- ◇ 算定式：地場産物とは、愛知県内産のものとする。
 使用率＝地場産物数/使用食品総数田面積×100
 ◇ 所管課：学校給食課把握数値。
 ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標D3：市民菜園区画数（累計）

(区画)	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
	431	550	1,111	2,000	3,000

- ◇ 算定式：市内における市民菜園区画数
- ◇ 所管課：産業振興課把握数値。
- ◇ 目標値：市民アンケート結果から設定。（H14年度実施）
 設問「あなたは、市民農園などで土とふれあう暮らしをしたいと思いませんか。」で「今すぐにでも継続的にしたい」3.4%、「時間ができれば継続的にしたい」19.3%と回答した市民ニーズから以下のとおり算出。
 $25,631 \text{ 世帯} \times (3.4+19.3) / 100 \times 0.45 = 2,618 \text{ 世帯} = 2,618 \text{ 区画}$
 $431 \text{ 区画} + 2,618 \text{ 区画} = 3,000 \text{ 区画}$
 係数0.45は、市民ニーズの約半分（45%）を満たすことをめざす。
- ◇ 備考：H14年度、431区画（内訳：市332区画、JA97区画、その他2区画）。
 1区画の面積（市）は、15～30㎡、概ね1区画30㎡。

● 検討・把握指標：米の自給率

- ◇ 米生産量1,340t/年×1,000÷（65.2kg/人・年×72,500人）=28.3%
- ◇ 目標値は、現在の休耕田がすべてなくなるとして、人口増加を加味して算出予定。

● 検討・把握指標：エコ農業宣言者数

- ◇ 今後、日進版のエコ農業のガイドラインを作成し、それに沿って農業を実施している人にエコ農業宣言をしてもらう。

● 検討・把握指標：農家戸数

- ◇ 目標設定はしない。H14現在、販売農家534戸+自給的農家364戸=898戸。

E. 緑のネットワーク

★：緑化推進に関する満足度

(%)	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
	—	—	49.2	54	59

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
 設問「緑化の推進について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標E1：緑地率

(%)	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
	—	—	41	40	39

- ◇ 算定式：緑地率=施設緑地(ha)+地域制緑地(ha)/都市計画区域面積3,490(ha)×100
- ◇ 所管課：都市計画把握数値。
- ◇ 目標値：緑の基本計画と整合性を図った。

● 環境指標 E 2 : 公園等愛護会活動公園数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(箇所)	—	—	51	78	84

- ◇ 算定式：公園愛護会制度等による公園等愛護会活動公園数。
公園愛護会制度とは、公園周辺の自治会、町内会、子ども会、老人クラブといった気のあった皆さんで登録していただき、除草、清掃等、皆さんが出来る範囲でお世話をします。
- ◇ 所管課：都市計画把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 E 3 : 市民に開放された樹林地箇所数（累計）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(箇所)	11	28	14	28	50

- ◇ 算定式：小学校周辺の樹林地、公園に隣接した樹林地など公的に開放された樹林地の箇所数。
- ◇ 所管課：都市計画把握数値。
- ◇ 目標値：市民に開放された樹林地を約5倍にする。
- ◇ 備考：現状は、東小・梨の木小・相野山小・南小・水晶山緑地・総合運動公園周辺・香久山の公園5箇所・機織池緑地・鷹見の森・南山エピックの公園1箇所。

● 検討・把握指標：緑の回廊延長

- ◇ 街路樹、川沿いの並木など、緑（樹木）を線で結ぶ「回廊」の延長距離。
- ◇ 今後現状値を調査し、道路整備計画なども勘案して目標値を設定する予定。

● 検討・把握指標：敷地面積 1,000 m²以上事業所の緑化率 30%以上の割合

- ◇ 事業所の緑化状況を推し量る指標として今後設定予定。

F. 生活環境

★：公害対策に関する満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	33.8	48	52

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
設問「公害対策について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

環境指標 F 1 : 大気汚染に係る環境基準適合率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	100	100	100	100	100

- ◇ 算定式：法に定める方法で大気質を調査している市内地点のうち、環境基準を達成している地点の割合。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：環境基準を達成する。
- ◇ 備考：窒素酸化物や浮遊物質（SPM）等の定点観測を実施する。

● 環境指標 F 1 : エコドライブ宣言者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	1500	—	1,500	4,000

- ◇ 算定式：エコドライブ宣言制度を設け、エコドライブ宣言した人数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：4,000人の宣言者数をめざす。

● 環境指標 F 1 : 市所有自動車のエコカー導入率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	7.2	50	57.8	80	100

- ◇ 算定式：エコカー導入率＝市所有エコカー台数(台)/市所有自動車台数(台)
- ◇ 所管課：財政課把握数値。
- ◇ 目標値：100%の導入をめざす。
- ◇ 備考：トラックなどエコカーが販売されていない車両は対象外とする。
エコカーの対象として☆☆☆☆とする（電気自動車、ハイブリッド、CNGもここに含まれる）。

● 環境指標 F 2 : 緑のカーテン延べ参加者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	558	1,200	2,000

- ◇ 算定式：緑のカーテンコンテスト等の延べ参加者数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：年間140人以上の参加者をめざす。

● 環境指標 F 3 : 光害苦情処理件数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	0	0	0

- ◇ 算定式：光害による年間苦情受理件数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：年間苦情受理件数0をめざす。

● 環境指標 F 4 : 公害苦情処理件数（光害を除く）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	125	119	113

- ◇ 算定式：公害による年間苦情受理件数。（光害を除く）
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 検討・把握指標：主要道路の自動車交通量

- ◇ 国道153号1箇所、名古屋豊田線2箇所、岩崎名古屋線2箇所、瀬戸大府東海線3箇所、岩藤名古屋線2箇所、岩作諸輪線2箇所、米野木筋生線1箇所で国・県が調査している。

● 検討・把握指標：自動車保有台数

◇ 44,103 台（平成 13 年度、軽二輪・軽自動車を含む）。 1 世帯当たり 1.7 台。

G. まちなみ・まちかど

★：まちなみや道路景観に対する満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	34.3	37	45

◇ 算定式：市民意識調査（3 年ごとに実施）。
設問「街並みや道路景観整備について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 G 1：市民 1 人当たりの公園面積

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(㎡)	9.7	10	9.0	10	10

- ◇ 算定式：公園面積/人口
- ◇ 所管課：都市計画課把握数値。
- ◇ 目標値：人口増加に見合った公園整備を行う方向として、国が定める整備目標水準を目標とする。

● 環境指標 G 2：商店数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(件)	—	—	2,383	2,300	2,350

- ◇ 算定式：市内における卸売業の商店数。
- ◇ 所管課：産業振興課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 G 3：まちなみ保存地区数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(地区)	—	1	0	1	2

- ◇ 算定式：制度をつくって、調査・地区同意により指定する。
- ◇ 所管課：都市計画課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 検討・把握指標：特定の公園利用者数

◇ 野方三ツ池公園は管理委託業者が計測、その他公園愛護会がある公園について簡易調査を依頼することにより把握。これらの公園を特定の公園として、利用者数を合計する。

● 検討・把握指標：市民会館・スポーツセンター・図書館の施設利用者数

- ◇ 市民会館・スポーツセンターはそれぞれ把握している利用者数。図書館は貸し出し冊数で換算する。
- ◇ 今後はセントラルパーク地区にこれらの施設が集中することを想定して、ここで行われるイベント参加者数なども利用者数に含め、算出方法についても再検討する。

H. みちと足

★：自転車・歩道による道路の利便性に対する満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	21.6	28	33

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
設問「自転車・歩道による道路の利便性について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。

● 環境指標 H 1：幹線道路の歩道整備率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	69	80	78.3	82	85

- ◇ 算定式：
歩道整備率＝道路の部分として設けられた歩道等の設置延長(km)/道路実延長(km)×100
- ◇ 所管課：道路建設課把握数値。
- ◇ 目標値：道路建設課把握数値。
- ◇ 備考：幹線道路とは、一級、二級、スクールゾーンに指定されている道路とする。

● 環境指標 H 2：道路緑化面積

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(㎡)	—	—	24,780	25,000	26,000

- ◇ 算定式：市内道路における総植樹帯面積。
- ◇ 所管課：土木管理課把握数値。
- ◇ 目標値：土木管理課把握数値。

● 環境指標 H 3：くるりんばすの1日あたり利用者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	1,404	1,500	1,600

- ◇ 算定式：利用者数＝年間くるりんばす乗降者数(人)/年間運行日数(日)
- ◇ 所管課：生活安全課把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 検討・把握指標：自転車・歩行者事故発生件数

- ◇ 愛知県警の把握しているデータから対人事故の件数を把握する。

I. 暮らし全般・エネルギー

★：環境にやさしいまちづくりに対する満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	41.9	49	58

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
設問「環境にやさしいまちづくりについて」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。

● 環境指標 I 1：エコライフ宣言者数（累計）

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	1,100	—	1,500	3,000

- ◇ 算定式：エコファミリー登録制度におけるエコライフ宣言者数。
◇ 所管課：環境課把握数値。
◇ 目標値：3,000人の宣言者数をめざす。

● 環境指標 I 2：太陽光発電設備設置世帯割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	4.0	18	25

- ◇ 算定式
設置世帯割合=住宅用太陽光発電システム設置世帯数(世帯)/総世帯数(世帯) × 100
◇ 所管課：環境課把握数値。
◇ 目標値：総世帯数の1/4の設置をめざす。

● 環境指標 I 3：市内3駅の乗降者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(台)	—	—	37,590	46,000	54,000

- ◇ 算定式：乗降者数=赤池駅年間乗降者数+日進駅年間乗降者数+米野木駅年間乗降者数
◇ 所管課：都市計画課把握数値。
◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 I 4：市役所環境保全のための行動計画達成率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	100	55	100	100

- ◇ 算定式：環境保全・創出のための行動計画における達成率。
◇ 所管課：環境課把握数値。
◇ 目標値：達成率100%をめざす。

● 環境指標 I 5 : ISO取得事業者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(社)	—	—	21	23	25

- ◇ 算定式：市内における ISO14001 認証取得事業者数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：現状の約 20%アップをめざす。

● 検討・把握指標：1 人 1 日当たりの電気使用量

- ◇ 家庭向けの電気使用量のみを対象。但し、中部電力が把握しているデータで、統計資料としては日進市だけのものがないため、把握方法は要検討。
- ◇

● 検討・把握指標：1 人 1 日当たりのガス使用量

- ◇ 家庭向けのガス使用量のみを対象。都市ガス、プロパンガス。民間企業が把握しているデータで、統計資料としては日進市だけのものがないため、把握方法は要検討。
- ◇

● 検討・把握指標：1 人 1 日当たりのガソリン使用量

- ◇ 家庭向けのガソリンのみを対象。日進市のみのデータがないため環境家計簿等で把握する。

J. 生活と廃棄物

★：ごみ処理等の環境対策に対する満足度

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	62.7	68	74

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）。
設問「ごみ処理などの環境対策について」満足度で「満足」、「まあ満足」と回答した市民の割合。

$$\text{満足度 (\%)} = \frac{\text{回答数 (満足+まあ満足)}}{\text{回答総数 (満足+まあ満足+どちらともいえない+やや不満+不満)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。

● 環境指標 J 1 : 環境配慮宣言店舗数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(店)	—	現状値 [H19] より向上	79	向上	向上

- ◇ 算定式：環境配慮宣言店等の制度を設け実施する。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：現状の向上をめざす。

● 環境指標 J 2 : フリーマーケット開催数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(回)	—	—	1	3	5

- ◇ 算定式：市内で開催される年間フリーマーケット開催数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：年間 5 回以上の開催をめざす。

● 環境指標 J3 : リサイクル率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	21.8	37	27.2	28.0	28.3

- ◇ 算定式：排出するごみ総量に占めるリサイクルされている量の割合。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：一般廃棄物処理基本計画（H23 年度策定）における値。

● 環境指標 J4 : 1 人 1 日当たりのごみ排出量

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(g/人・日)	900	800	939	820	770

- ◇ 算定式：市内から排出量されたごみ総量÷人口÷365 日 (g/人・日)。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：一般廃棄物処理基本計画（H23 年度策定）における値。
- ◇ 備考：資源物も含む量である。

● 環境指標 J4 : 不法投棄量

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(t)	—	—	43	22	9

- ◇ 算定式：市で回収処理を行った年間不法投棄量。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。
- ◇ 備考：資源物も含む量である。

● 検討・把握指標：生ごみリサイクル世帯数

- ◇ 現状は電動生ごみ処理機の補助数。この他コンポスト、EM による世帯も今後把握。

K. コミュニティ

★：身近な地域活動が活発であると思う市民の割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	32.8	38	43

- ◇ 算定式：市民意識調査（3 年ごとに実施）
設問「あなたは、お住まいの町内会では、地域活動が活発であると思いますか。」で
「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した市民の割合。

$$\text{市民の割合 (\%)} = \frac{\text{回答数 (「そう思う」 + 「おおむねそう思う」)}}{\text{回答総数 (「そう思う」 + 「おおむねそう思う」 + 「どちらともいえない」 + 「あまりそう思わない」 + 「そう思わない」)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標 K1 : 区・自治会加入率

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	71.1	75	80

- ◇ 算定式：区・自治会加入率 = 区・自治会加入者(人) / 人口(人)
- ◇ 所管課：市民協働課把握数値。
- ◇ 目標値：第 5 次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標K2：にぎわい交流館の利用者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	35,550	39,100	41,000

- ◇ 算定式：にぎわい交流館年間利用者数。
- ◇ 所管課：市民協働課把握数値。
- ◇ 目標値：市民協働課把握数値。

● 環境指標K3：パートナーシップ協定締結団体数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(団体)	—	8	—	8	20

- ◇ 算定式：環境まちづくり基本条例に規定される環境パートナーシップ協定に参加する団体数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：20 団体をめざす。

● 環境指標K4：地域活動参加事業者数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(事業者)	4	13	14	17	20

- ◇ 算定式：地域清掃活動やエコフェスタへの参加事業者など。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：20 団体をめざす。

L. 遊びと学び

★：環境問題に関心を持ち、自ら学んでいる市民の割合

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H23]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(%)	—	—	28.1	33	38

- ◇ 算定式：市民意識調査（3年ごとに実施）
設問「あなたは、環境問題に関心を持ち、自ら学習に取り組んでいますか。」で「している」と回答した市民の割合。

$$\text{市民の割合 (\%)} = \frac{\text{回答数 (「している」)}}{\text{回答総数 (「している」 + 「していない」)}}$$

- ◇ 所管課：企画政策課把握数値。
- ◇ 目標値：第5次総合計画数値と整合性を図った。

● 環境指標L1：環境共育講座数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(講座)	—	—	16	23	30

- ◇ 算定式：年間環境共育講座数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：年間30 講座をめざす。

● 環境指標L2：環境パートナーシップ事業数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(件)	—	—	4	10	20

- ◇ 算定式：環境基本計画パートナーシップ事業における年間事業数。
環境基本計画パートナーシップ事業とは、環境基本計画のパートナーとして、計画を推進する事業やイベントの募集を行い、市が登録するものです。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：20団体をめざす。

● 環境指標L3：エコフェスタ参加団体数

	H14	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(団体)	—	—	31	35	40

- ◇ 算定式：市が開催するエコフェスタ参加団体数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：現状の約30%アップをめざす。

● 環境指標L4：こどもエコクラブへの参加者数

	H15	短期目標 [H25]	現状値 [H24]	短期目標 [H30]	長期目標 [H35]
(人)	—	—	106	210	300

- ◇ 算定式：にっしんこどもエコクラブへの参加数。
- ◇ 所管課：環境課把握数値。
- ◇ 目標値：現状の約3倍をめざす。

